ビジネスリーダーのための情報誌

繁栄

BESTパートナー
三井生命

October
10
vol.449

Special Talk

新たな市場を切り開く

絶え間ない新商品の開発で

ヤマト株式会社　代表取締役社長　長谷川　豊 氏

Monthly feature

高年齢者の雇用

社会に必要な労働力として
エイジレスで働ける社会を

Pick Up! Hobby

鉄道模型

新事業として愛好者向けの
サロンを開設

サロン ドゥ サンライズ エキスプレス（東京都・練馬区）

Pick UP! Hobby

鉄道模型

新事業として愛好者向けのサロンを開設

車両の収集や製作、運転、レイアウト・ジオラマの製作など、さまざまな楽しみ方ができ、コアな愛好者も多い鉄道模型。東京都練馬区で光学用プラスチックなどを製造する株式会社日出の代表取締役社長、稲川善也さんも中学生の頃からの愛好者の1人です。さらには、「同好の士に楽しんでもらえる場を提供したい」と、会社の新事業として、社内に「サロンドゥ サンライズ エキスプレス」を開設し、サービスを始めています。

サロンには、稲川さん自慢の約11メートル×4・5メートルの鉄道レイアウトを設置。計6路線が走っており、会員になれば、自由に自らの鉄道模型を運転することができます。「運行や停止、速度調整のほか、ポイントの切り替えといった操作も必要で、なかなか難しいもの。1つの線の操作をマスターするだけで半年ほどはかかります」と稲川さん。脱線したり、車両同士が衝突したりすることも珍しくなく、油断できません。

このほか、稲川さんのおすすめメーカーの模型車両も販売しており、東海道新幹線をはじめとした新旧さまざまな鉄道模型の車両が並んでいます。

稲川さんのサロンのレイアウトには線路や駅、トンネルはありますが、山や木や川といった情景はありません。「そこまで作る人もいますが、私は情景を想像しながら運転するのが好きなので、そこまで作り込むことはしません」

一方、鉄道模型車両は旧国鉄時代のものなど、昔の車両ほど人気が高いそうです。稲川さんの一番のお気に入りも旧国鉄時代の1960年代から信越本線の上野～長野間で運行されていた特急「あさま」（181系）。「同区間には急勾配の碓氷（うすい）峠があり、この峠を越える時は『シェルパ』と呼ばれる補助機関車が連結して車両を押し上げるという珍しい運行方法がとられていました」と、稲川さんは解説します。

「小学生の頃、中軽井沢の山荘へ時々出かけていたのですが、横川駅（群馬県安中市）で機関車が連結され、軽井沢駅（長野県北佐久郡軽井沢町）で連結が解かれていたのを思い出します」

記憶に刻み込まれた鉄道車両への強い思い入れ。鉄道模型にはまる愛好者の気持ちが少しわかった気がします。

サロンの鉄道レイアウトで、自ら模型を運転する稲川さん。慎重に操作し、お気に入りの車両の姿を見守っている。

稲川さんお気に入りの「あさま」だけでも181系(中央のクリーム色と赤色の車体)や189系(その左)など複数の車両がある。

新幹線(内回りと外回り)と平坦線、勾配線(内回りと外回り)、私鉄線の計6線が配置されているレイアウト。

●サロン ドゥ サンライズ エキスプレス
http://www.hinode-japan.co.jp/salon-ex/index.html